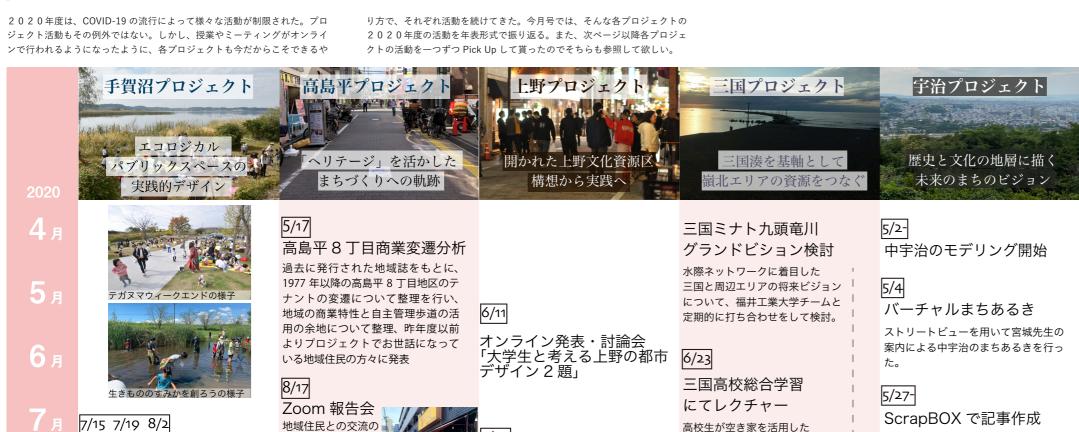


プロジェクト、2020年度の歩み



7/15 7/19 8/2 現地調査

8/30 生きもの観察会

9/20 生きもののすみかを創ろう①

10/17 - 11/8 テガヌマウィークエンド vol.3 ヌマベ クラブ

4週末にわたり、10主体と連携

全 19 のプログラムを開催

12/20 生きもののすみかを創ろう②

1/17 生きもののすみかを創ろう③ 2/6

2/21 生きもののすみかを創ろう④

牛きもののすみかを創ろう(5) 上記調査結果を整理。報告集に掲載

奥手賀 水辺の拠点 マスターコンセプトブック 作成・発行

3/23

地域住民との交流の 機会を設け、自主管 理歩道の類型や考え られる活用案につい てプレゼン

10/20-

12/1

高島平版

7/24 ひじりばし博覧会 2020

「『密に交わる空間』をめぐる ラウンドテーブルェ

apops 立ち上げ会議 web サービス提供により自主管理歩 道の存在周知、市民の声の情報収集 を通じた公共空間の質の向上、歩道

状空地の活用事例集めを目論む 地権者ヒアリング 民有歩道状空地に 関する現行制度へ の意見を拾い上げ

自主管理歩道実態調査

都市計画学会報告執筆

される「基盤整備済地区における個 別敷地単位で提供された民有歩道状 空地の空間実態 板橋区高島平 7、 8、9丁目を対象として」

10/14-

「上野・湯島ガイトウスタンド 歴史的市街地における空き家活用 &テラス」路上占用社会実験 プログラムの意義と課題」

11/19-21 現地調査

12/17-18 オンライン朗読スナック「雁」初めての現地訪問。

社会実験報告書発行

今年度加わったメンバーにとって +野外パフォーマンス「雁」

> UDCS 大学まちづくり リーグ中間研究発表会

2/26

大学高校まちづくり リーグ研究発表交流会

イベントを企画するにあたり

三国高校と連携した活動

「公立高等学校の授業と連携した

将来ビション検討のための調査。

空き家活用の意義や三国の

魅力をレクチャーした。

について論文投稿

射和,中島,前山(2020),

ScrapBOX で記事作成

8/4-

第1回フィールドワーク 宇治の主要な場所を見学した。

10/23-

第2回フィールドワーク 中宇治の空間資源を調査した。

11/29-

第3回フィールドワーク ワークショップ with 奈良女 調査と提案に関する議論を行った。

2/13

宇治ワークショップ with フューチャーデザイン宇治

3/15

中宇治地域まちづくりコン セプトブック Ver.1 発行



6/9-

よこまちポスト ON AIR

富士吉田プロジェクト

国道の拡幅を契機とした

歴史・文化を生かす

まちづくり

コロナ禍で現地での活動が難しく なった中で、リモートで様々なゲス トを迎えてお話を伺う「よこまちポ スト ON AIR」を 5 回開催。第一回 にはよこまちポスト設計を担当した 博士の三文字さんにお話を伺った。

10/26

まちづくり勉強会開催

8-9 月にかけて PJ 内で検討したまち づくりビジョンについて、その草案 を地域の方に共有した。大学と現地 の会場(西念寺)を繋いでのリモー ト開催となったが、今回が初めての 参加者もいらした。

12/4

ヒアリング調査

国道拡幅に伴い敷地が減少する 2 つ の御宅を訪問し、拡幅後の住宅の建 て替えなどの対応について意見を 伺った。

3/22

報告書・将来ビジョン完成 1月からは、PJ で毎年度発行してい るまちづくりノート(報告書)と、 今年度の初めから検討を続けてきた まちづくりビジョンを冊子としてま とめる作業を行った。

4/13

Zoom による小高勉強会

小高プロジェク

原発災害からの復興と

新しい土地利用

緊急事態宣言に伴い現地活動が制限 される中、これまでの PJ で蓄積され た原発被災地に関する研究や、現地 で活躍する「主人公」のヒアリング をレビュー

7/11-

駅前ハーブ園整備



小高駅前の空き 地を活用、次年 度にカフェ・ ウェルカムセン ターを併設予定

9/6-

菜園・料理講習会 外部講師をお招きして住民向けの講 習会を実施

10/1-

住総研論文執筆

「原発被災地域における土地利用手法 の構築に向けた事例研究 - 小高を基 点にした、被害と復興の実態把握と 検証 -」

11/19-

論文アーカイブ3時点 写真比較まちなか造園 レシピガイドブック製作



被災後 10 年間 の総括と、次の フェーズに向け たプロジェクト の始動

3/6-

菜園ストリート整備

駅前通りの空き地敷際を活用した菜 園ストリート空間の整備

vol.303 振り返り、繋ぐ TEXT_MATSUZAKA/M1 **URBAN DESIGN LAB. MAGAZINE**

プロジェクト活動 Pick Up

前ページでは、各プロジェクトが2020年度どのような活動をしてきたか を年表形式で振り返ったが、こそれぞれの活動の中身まではわからないとい う方も多いだろう。

手賀沼プロジェクト活動 Pick Up

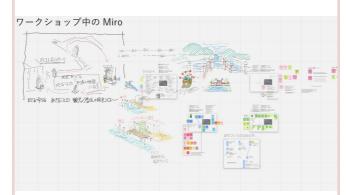
テガヌマウィークエンド vol.3 『ヌマベクラブ』



2018 年度から「テガヌマウィークエンド」と称して、手賀沼周辺の空間を 横断的に活用する社会実験を開催している。水面から、桟橋、沼畔、フィッ シングセンターまでの多様なヌマベ環境を一体的に活動の場として利用する プレイスメイキングの実践である。その第三弾「ヌマベクラブ」では、社会 実験のテーマを、「ヌマベのある週末を日常に」「みんなで使うヌマベを目指 して」と設定した。社会実験の期間をこれまでの2日間から4週末・8日間 として、10 の地元主体による全 19 プログラムを分散/連続的に開催した。 ヌマベのプレイヤー同士で緩やかに繋がるニーズが見えてきて、今後の市民 による「ヌマベ」という公共空間マネジメントに繋げていきたい。(M1 鈴木) 本ページでは、それぞれのプロジェクトの活動から1つを取り出して紹介 してもらうことで、各プロジェクトが実際に何をしてきたかを知ってもらえ ればと思う。

宇治プロジェクト活動 Pick Up

「宇治ワークショップ with フューチャーデザイン宇治」



オンラインにてホワイトボードツール Miro を使いながらのワークショップ を行った。学生からは、これまでに「外からの視線」を大事にしながら調査 や議論を重ねて作成した「中宇治まちづくりヴィジョン・コンセプト ver.1」 を発表し、フューチャーデザイン宇治の方々を中心に「内からの視線」でご 感想やご意見、今後の発展への示唆をいただいた。後半は「観光地と居住地 は共存、融合できるか」というテーマについて議論した。地元の方々との ワークショップを通じて、それまで学生メンバーの間ではあまり話題になら なかった部分や、新たな可能性に気付くことができた。来年度に作成する Ver2. への意欲も高まった。(M1 谷本)

上野プロジェクト活動 Pick Up

「上野・湯島ガイトウスタンド&テラス」道路占用社会実験

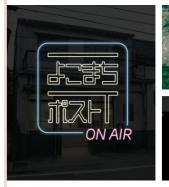




国土交通省の通称「コロナ道路占用」を活用し、感染症によって打撃を受け た飲食店を盛り上げ、ストリート空間のポテンシャルを確かめるため、街灯 に取り付けられる家具「ガイトウスタンド」をデザイン、上野の仲町通りに 設置して社会実験を行い、利用実態を調査した。この取り組みによって歓楽 街然としていた仲町が若者や女性・家族の空間となり、ストリート空間の可 能性が明らかになった。(詳しい調査結果については報告書をご覧ください。) 現在は一時休止しているが、また2021年春以降ガイトウスタンド自体のバー ジョンアップもしながら活動を再開し、仲町通りからより広域の上野界隈の ストリート空間活用へつなげていくことを構想している。(M1 河崎)

富士吉田プロジェクト活動 Pick Up

よこまちポスト ON AIR





現地に行くことが難しい状況の中で、これまで関わってきた地域の方々と の繋がりを維持しつつ、より広い範囲に PJ の活動を周知することを目的 に、リモートで様々な方をゲストに迎えてお話を伺う「よこまちポスト ON AIR」を開催した。ゲストには、よこまちポストの改修設計者から学芸員. 甲府市役所職員、そして他地域で道路拡幅を契機としたまちづくりに携わっ た専門家まで、まちづくりの多様なプレイヤーにお越しいただいた。 全5回の開催を通じて、のべ40人の参加があり、これまで本PJとの接点 がなかった地域内外の方々に横町・大門地区を知ってもらうきっかけとなっ た。(M1 齊藤)

三国プロジェクト活動 Pick Up

大学高校まちづくりリーグ研究発表交流会



三国をフィールドに活動する高校と大学(三国高校・福井大学・福井工業大 学・東京都市大学・東京大学)が合同で、2020年度の活動内容について報告。 オフラインとオンラインのハイブリッド方式で実施し、発表に対して会場の 鉄道やバスの事業者の方、地域にお住まいの方からご意見をいただきました。 三国に携わる学生の輪が年々広がってきています。お互いの活動を知り連携 の可能性を探ることでより効果的な活動ができると考え、この場を設けまし た。報告会は今後も定期的に開催していく予定です。(M2 宗野)

高島平プロジェクト活動 Pick Up

自主管理歩道現地調査



高島平 PJ では、計画的市街地である高島平において今後の継承が期待され る地域資源を「ヘリテージ」として捉え、今後のまちづくりにおける有効活 用を目指している。2020年度はヘリテージの一つである自主管理歩道に着 目し、2月には高島平7-9丁目で現地観察を行った。自主管理歩道の用途や 舗装などを悉皆的に把握し、歩道としての連続性がなく、有効活用されてい ない、といった課題を改めて共有した。観察の結果を分析した論文を都市計 画学会報告集に投稿しており、来年度以降、実際の自主管理歩道をフィール ドとした社会実験などを端緒に「ヘリテージを活かしたまちづくり」の実践 が求められている。(M1 藤本)

小高プロジェクト活動 Pick Up

まちなか菜園のこれから



小高 PJ では、2017 年からまちなか菜園の整備を継続してお手伝いしている。 そのうちの一つ「屋根園」は、地域の人材育成を目指す「OMSB」と協働し ながら整備を実施している。11月には地元の方が主導となって太陽光パネ ルが設置され、自家発電によって夜間にも明かりを灯すことができるように なった。屋外での BBO が開催され、まちなかを行き交う人々が立ち寄り語 り合う交流が生まれた。被災から 10 年を経て、小高のまちなかでは再建も 増加しつつある。今後は「一敷地」から「ストリート」へ、まちなか菜園の 展開の仕方を変える方針だが、空き地が持つ豊かさをどのように継承してい けるかが問われている。(M1 藤本)

今年度も開催決定!! 詳細はこちらから!



プロジェクト振り返り座談会

プロジェクト活動において学生メンバーを引っ張ってくれた M2 の方々は、 コロナ禍に見舞われた2020年度を含め二年間の活動をどう捉えていたの か。プロジェクトに残る M1 や新たに参加するメンバーに向けて、M2 の方々

が考えていたことや感じていたことを何か形にして引き継いで欲しいと考 え、3月号の企画として扱うことにした。今後、目の前のタスクに追われ辛 く感じたときはふとこのページを見返してみて欲しい。

現地に行けないことで、M1と地域の方とをつなぎきれ なかったと感じる。プロジェクトの仕事の引き継ぎはで きても、人間関係の引き継ぎができなかった。

コロナでやることを絞れた点は良かった。こ

地域の人びとと行うワークショップやディスカッション・ の機会を失ってしまった。特に高齢の方々の参加が減っ てしまった。

COVID-19 の影響について

.....

当初の予定通りに進んでいたら、手が回らなく。 なっていた可能性もある。そう言った意味でま とまった時間が取れたという意味では良かっ

M1 にとっては現地のイメージがないままマスタープラ ンやビジョンを作り始めなければいけなかったのは難し かったのではないか。

..... 上野 PJ のガイトウスタンドはコロナ前から企画されて いたが、コロナ下の道路占用特例がかなり後押しになっ たのはよかった。

<編集者の感想>

もしれません。一方で現地に行けない、現地の方々と深 繋がりを構築していく意識を強く持ちたいと思います。

できることが限られた分、そこにフォーカスしてコミッ く関われていないことは M2 がいなくなる来年度以降に トできたのはコロナ禍における数少ない収穫だったのか 大きな影響が出てきそうです。改めて、現地の方々との

> その地域をよく知っているおじいちゃんとかと繋がることが大事で、ネットや書類では。 ないオーラルヒストリーはイベントなどのヒントになった。特別な人に出会うことでそ の地域にぐっと関わりたくなったが、コロナでその萌芽を作るのが難しい。

関係性がお互いに本当にできているかはわからないが、 三国では、報告会後に声を掛けてくれた瞬間は関係性が できたと感じた。UDCS の存在は大きい。 , できたと思した。 しこ-

......

人の話を聞いてるときにメモを取っていたり、 わからないことは頻繁に連絡取ったりあなたの。 地域の方々との関係性の築き方 話に興味があるんですよというのをはっきり示 すというのが大事だと思った。

•••••••

、スタンスがぶれることなく、人と人をつないでうまくや 🦫 る。なんで・どうやってこの PJ が始まったのか、など を根底を理解しておくとやりやすい。文化資源と今の活: 動がどれだけリンクしているかを人に伝えるべき。先生 方から学ぶ人間性はすごく大きい。

自分たちが何者なのかというのを表明して、先生交えな がらコンタクトを取っていくのが大事。

<編集者の感想>

が、相手が知る地域のことだけではなく、そのいます。

現地の方とメールや直接お話しする機会は私も相手自身に関心があることを示すという言葉に この1年で何度か経験しましたし、きちんとコ はハッとさせられました。自分が何者か、相手 ミュニケーションは取れていたつもりでした が何者なのかをもっと意識するべきなのだと思

່ ビジョンを策定したのであれば、一人でも多くの人を巻 🧘 こンョンを束止したのじめれば、一人でも多くの人を含き込んで、本気で実現するつもりでアクションプランを PJって先生や博士が軸でずっと面倒を見ているから一

......

立て実行して行くこと。

今しか記録できないことをしっかり見て記録すること。 コロナの打撃による変化が長期的に見てまちのいろいろ。 なことが変わるきっかけになると思うで、そこらへんを 👶 しっかり記録しといてほしいなあと思います。

PJの今後について

【 貫性が保たれる部分も大きいけど、学生間でバトンを渡 🧘 していってほしい。

> 会議はできるだけ定期で行う、時間を決めて絶。 ・・ 対に超過しない、議事録をまとめて後から閲覧: できる形にするとか。そういう社会でも必要な プロジェクト進行能力は是非先輩たちが後輩に 示してあげてほしい。

地域の人びととの議論の場をしっかり再構築する、もし : くは継続して欲しい。自分たちが提供できるアカデミッ クな視点とは何かを明確にしながら、提案や活動への参 加などを続けて欲しい。

PJ 活動は地域の人々の協力あってのものなので、そこ のコミュニケーションには引き続き尽力してほしい。

.....

<編集者の感想>

するのだろうかと私自身も考えることがあります。地域 ら実現に向かう第一歩なのだと肝に銘じました。

私が関わるどちらのプロジェクトでも、今年度まちづく の方々と来年度入ってくる後輩を巻き込んで、限られた りのビジョンを策定しましたが、果たしてどれだけ実現 時間の中で意志のバトンを渡していくことが、絵空事か

座談会参加者

M2(話し手): 松本、應武、佐鳥、砂川、西野、沼田、宗野

M1(聞き手):河崎、齊藤、鈴木、藤本、松坂

今後も長く付き合って行きたいと思えるまちに出会えた ことが最もよかったと思う。

形(書籍・イベント)としてプロジェクトの成果を作り 上げられたことが楽しかった。

PJに興味を持って関わってくれる人がどんどん増えて

- いくところに、地域のポテンシャルを感じることが出来
- て、自身の喜びにもなった。

....

PJ のやりがい / やり残したこと

ビジョン策定の過程でも地域の人の意見を拾い。 上げることができなかったので。ビジョンが机 上の空論、考えて見ただけで実現しない、もの になってしまいそうな気がしている。

人員不足もあるが、自分のやっていることに後輩を巻き

どうしても進行中の PJ を途中で後輩に託す形になって しまった。優秀な後輩たちが形にしてくれたものの、欲 を言うとやはり一緒に完成の喜びを味わいたかった。

域の方々を巻き込んで、というと

新たなまちに出会えること、自分が何かした ころはコロナ禍もあってまだまだ体感でも実 証を形にして残せることのやりがちはこの一際にもできていないと感じます。まちづくり 年で私も感じることができました。一方で地 の輪を大きくして、悔いなく後輩にバトンを 渡せたら良いなと思いました。

来年度以降の活動に向けて最後に一言!

上野 PJ も手賀沼 PJ もハードワークで削ってくるタイ プ。小さい PJ が枝分かているが、根底にあるものや合 わさって何を実現したいかといったことをもっと話せる と良い。上野 PJ では同期と一緒に話す機会があったの がすごくよかった。同じ方向を向いているというのは安 心できるのでディスカッションして欲しいし、同期を大 事にして欲しい。



宇治 PJ は他の大学の学生や先生と交流する機会がある 点が特徴なので、そうしたつながりを大事にしていって ほしい。自分たちでやりたいことを主体的に積極的に 言っていくと同時に、マイルストーン的に細かく計画立 ててやっていくことが大事。



手賀沼は11月くらいギリギリまでやってきたけど、最 後までやり切ったことで、修論への切り替えがうまく いった。他研究室の修論の進み具合と比べて焦ると思う

が、PJをしっかりやりきってほしい。



小高 PJ は復興がテーマだが、震災から10年が経ち、 復興まちづくりからふつうのまちづくりへステージが変 わってきている。大学の PJ は途中で終わってしまうこ とが多い。ずっと関わることができる拠点があるという のは大きいのでそれを継続していって欲しいし、提案 しっぱなしになってしまうのが大学のよくないところだ と思うので、やめずに続けていって欲しい。

手賀沼 PI はマンパワーが減ってしまうので、大事なと ころだけ押さえて無理をしないで良いと思う。その中で、 自分のやりたいことを先生に提案してみるということを 意識しないと、決まった道をみんなでやろうという感じ

高島平 PJ は後輩の色がちゃんと出ていてよかった。地 域の人とディスカッションする時間を再構築していって 欲しい。コロナでやってきたことを地域に還元していっ



新しい M1 が入ってきた時に雰囲気ができてしまうと、 それを覆すのは難しい。ドライブが整理されていないと 事前資料を読む気が失せたりするので、情報とかデータ の整理をすることと、ミーティングの時間を決めるとか ミーティングの総括をちゃんとやるとか有意義に進めて いくこと。そういったちゃんとした空気感をいかに確立 できるかというのが大事。



今年度は現地になかなか行けない中でビジョンを打ち立 てるような活動が多かった。三国では5年前にいいビ ジョンを立てたけど、世代交代のタイミングで熱が冷め ていってしまって全然実現できていない。ビジョンは打 ち出しっぱなしになってしまいがちなので、実現しよう と思ったらアクションプランを緻密に立てて時間を掛け てやっていくことが必要。



座談会に参加していただいた M2 の皆さん、ありがとうございました! そして二年間お疲れ様でした!今後のご活躍を楽しみにしています!

2020 年度のプロジェクト成果物

宇治 PJ- 中宇治地域まちづくりコンセプトブック ver.1



アーバンデザインセンター宇治設立にあたり、東京大学・奈良女子大学・慶應義塾大学・京都芸術大学の4大学が協働して、「外」の視点から中宇治を調査・分析し、地域の将来像を描いたものである。この客観的な分析と提案を元に、今後のまちづくりビジョンの策定に向けて、柔軟にバージョンアップしていく。

(M1 鈴木)

小高 PJ-「まちなか菜園のススメ」第2版



2018 年より定期的に実施している「菜園講習会」での活動内容や得られた知見をまとめ、パンフレットを作成した。第2版となった最新版では、「菜園tips」を追加し、スムージーやパセリペーストなど、ハーブを用いた料理に関するレシピパートを充実させた。実践的で楽しめる内容に。

(M1 藤本)

富士吉田 PJ- 横町・大門まちづくりビジョン 2020 「歴史の物語」とともに暮らし続けるまち



PJとして活動してきた 4 年間の集 大成として、国道拡幅後の横町・ 大門地区の将来像を描いた。地区 が持つ「みち・自然・建物」の 3 つの"歴史の物語"を継承・発展し ていくことをコンセプトに、地区 全体、そして地区を構成する特徴 的なエリアごとの具体的な整備計 画を提案した。

(M1 齊藤)

上野 PJ- ガイトウスタンド道路占用社会実験 2020 報告書



通称「コロナ道路占用」を活用し街灯に取り付ける家具「ガイトウスタンド」を設計し、2020年10月にストリート活用の社会実験を行った。本報告書はガイトウスタンドの利用実態やまち・ストリートの変化を調査・分析し、次なるアクションに向けて取りまとめたものである。

(M1 河崎)

手賀沼 PJ- 奥手賀・水辺の拠点 マスターコンセプトブック

行政が一義的に定め実行する「マスタープラン」と異なり、エリアに関わるあらゆる主体が共通で掲げ、実践し、試行錯誤しながら改変してゆける柔軟なまちづくりの方針である「マスターコンセプト」を作成した。奥手賀の資源を活かしたこれからの水辺の拠点づくりのビジョンを示している。

(M1 谷本)

高島平 PJ- 都市計画学会報告集への投稿



本年度は計画的市街地の「ヘリテージ」の一つである自主管理歩道に着目。2月の高島平7-9丁目の自主管理歩道での現地調査で空間実態を把握し、「基盤整備済地区における個別敷地単位で提供された民有歩道状空地の空間実態 板橋区高島平7、8、9丁目を対象として」として投稿した。(M1 藤本)

COLUMN

BOOK OF THE MONTH



現代語 古事記

17日世泰 2011 学研プラス

> 推薦者 M1 松坂

令和の時代も3年目になる。天皇家の 後継問題も議論されているが、これを 遡ると神話に辿り着く。私たちは地域 と向き合うなかで地域の歴史を紐解こ うとするが、日本という国の歴史のそ の一番根底にある物語に一度触れてみ てはいかがだろうか。

WEB MAGAZINE

M1 -775 M1 675 - 1275 M1 175 - 387 M2 475 - 275 M2 675 -

修士研究振り返り座談会

プロジェクトの振り返り座談会に引

き続き、修論を成し遂げた修了生の

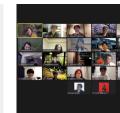
先輩方に修士研究を振り返っていた

だき、後輩へ向けて成功したことや

苦労したこと、アドバイスをシェア

していただきました。(M1 河崎)

続きは都市デザイン研究室 HP で!



2020 年度追いコン開催

今年度はオンラインで追いコンを開催しました。卒業生、修了生の方々 からは研究やプロジェクトに賭けて きた熱い想いがこもったメッセージ をいただき、身が引き締まる思いでした! (M1 藤本)

LOOKING BACK AT MARCH

 13th
 19年度卒の追いコン

 18th
 学位授与式(学部)

 19th
 学位授与式(大学院)

 22th
 20年度卒の追いコン

 23th
 修論振り返り座談会

POSTSCRIPT

大学への立ち入りが厳しくな号で学生証を貰いに14号館を訪れた日からもう1年が経つ。1年前はできなかったことがいくつもとにまるよく一次のでも見るとしまだまだであっていることとまだまだがのでいる。(M1 松坂)

発行日: 2021 年 3 月 31 日